中学地理プリント（過去問類似）
アジア州

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 インドネシアの輸出構成の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。なお、1980年の輸出総額に比べ、2016年の輸出総額は約15倍に拡大しているものとします。（2019年　山形県公立入試　類似）

1. 原油や天然ゴムの割合が低下し、機械類が最大の輸出額を占めるようになった

2. コーヒーや天然ゴムなどの農作物の輸出割合が、輸出全体の半分を超えた

3. 資源価格の高騰により、1980年当時よりも原油の輸出構成比が高まった

4. 国内の工業力が低下したため、製品の輸出を止めて原料の輸出に専念した

問2 世界の自動車生産の推移に関する記述として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2024年　鹿児島県公立入試　類似）

1. 中国は2000年代後半にアメリカ合衆国の生産台数を追い抜き、その後も2500万台を超える規模まで成長した。

2. アメリカ合衆国の自動車生産台数は、2000年から現在に至るまで常に世界第1位を維持している。

3. インドは21世紀に入り急速に成長し、2015年以降は中国の生産台数を上回って世界最大となった。

4. 21世紀の自動車生産において、中国がアメリカ合衆国を生産台数で上回った事実はまだない。

問3 米の生産量上位10か国を見ると、中国、インド、インドネシア、バングラデシュ、ベトナムなどが並んでおり、アジア諸国がその大部分を占めています。これらの国々における米の生産と消費の実態について、正しく述べたものを選びなさい。（2018年　岩手県公立入試　類似）

1. 人口が密集し米を主食とする地域であり、生産された米の多くが生産国内で消費される自給的な農業が行われている。

2. 外貨獲得を主な目的として、生産量のほとんどをヨーロッパや北アメリカへ輸出する商業的な農業が行われている。

3. 乾燥した気候を克服するため、大規模なスプリンクラーを用いた灌漑農業により、小麦から米への転換が進んでいる。

4. 労働力不足を補うために徹底した機械化が進んでおり、広大な土地を利用して企業的な経営による大規模栽培が行われている。

問4 2001年のベトナムにおける輸出統計において、輸出総額の12.0%を占めて第3位にランクインしていた、エビなどの加工品を含む品目として正しいものを次から選びなさい。（2021年　兵庫公立入試　類似）

1. 魚介類　**2.** 鉄鋼　**3.** 機械類　**4.** 石炭

問5 世界の主要な農作物の生産量を示した統計において、中国の生産量が約2億トンと突出しており、アメリカ合衆国の約838万トンやブラジルの約1,037万トンを大きく上回っている穀物はどれですか。（2022年　福岡県公立入試　類似）

1. 米　**2.** 小麦　**3.** トウモロコシ　**4.** 大豆

問6 ある国の経済指標について、国内総生産（GDP）は世界第2位の規模（約12兆ドル）を誇りますが、一人あたり国内総生産で見ると約8000ドルという水準に留まっています。この数値が示す、この国の経済的特徴として正しいものはどれですか。（2022年　福岡県公立入試　類似）

1. 膨大な人口を抱えているため、国全体の経済規模は非常に大きいが、国民一人あたりの平均的な豊かさは発展途上の段階にある。

2. 極端な少子高齢化によって生産年齢人口が急減しており、国全体の経済規模に対して労働者の生産性が著しく低下している。

3. 経済活動のほとんどを自給的な農業が占めており、国際市場での工業製品の取引が一人あたりの所得に反映されていない。

4. 特定の希少金属の輸出のみに依存するモノカルチャー経済であるため、国際価格の変動によって一人あたりの所得が安定していない。

問7 1945年に独立を宣言した後、長年の戦乱を経て1976年に南北の統一を果たした東南アジアの国について、その経済的な変遷を説明したものとして最も適切なものはどれか。（2023年　東京都公立入試　類似）

1. ドイモイ（刷新）と呼ばれる政策により市場経済を導入し、外資企業の受け入れや輸出を拡大させた。

2. モノカルチャー経済からの脱却を目指し、天然ゴムやスズの輸出に特化した開発政策を継続した。

3. 社会主義体制を堅持し、国営企業のみによる経済運営を続けることで自国資本の流出を防いだ。

4. ASEAN（東南アジア諸国連合）への加盟を拒否し、欧州諸国との貿易額を急増させる独自の経済圏を構築した

問8 鉄鉱石や石炭の産地と製鉄所の分布を示した統計資料において、中国の内陸部に多くの製鉄所が配置されている特徴を説明した記述として正しいものはどれですか。（2022年　大阪公立入試　類似）

1. 国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している

2. 海外から輸入される原料を加工するため、河川の河口付近にのみ製鉄所が集中している

3. 石炭の産地から離れた、消費電力の少ない高原地域に製鉄所が集中している

4. 内陸部の農業地帯に肥料を供給するため、農地に近い場所に製鉄所が分散している

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **原油や天然ゴムの割合が低下し、機械類が最大の輸出額を占めるようになった**	1980年時点では原油（約24%）や天然ゴム（約16%）が輸出の主力でしたが、2016年には機械類が約41%を占めるまでになりました。これは、外資系企業の工場進出や国内産業の育成によって、付加価値の高い工業製品を輸出できる体制が整ったことを背景としています。
問2	**答え 1** **中国は2000年代後半にアメリカ合衆国の生産台数を追い抜き、その後も2500万台を超える規模まで成長した。**	21世紀の中国は「世界の工場」として急速な経済成長を遂げ、自動車産業においても大きな飛躍を見せました。2008年以降の統計においてアメリカ合衆国を追い抜いたことが示されており、2015年以降は他の国を大きく引き離す圧倒的な生産台数を記録しています。
問3	**答え 1** **人口が密集し米を主食とする地域であり、生産された米の多くが生産国内で消費される自給的な農業が行われている。**	米の生産量上位を占めるアジア諸国は、モンスーン（季節風）の影響を受けて降水量が豊富であり、古くから稲作が盛んです。これらの地域では米を主食とする文化が根付いており、膨大な人口を養うために生産が行われています。そのため、生産量そのものは小麦に匹敵するほど多いものの、そのほとんどが国内で消費される結果、国際市場に出回る「輸出量」は限定的になるという特徴があります。
問4	**答え 1** **魚介類**	ベトナムでは、2000年代初頭から豊かな水産資源や長い海岸線を活かした養殖業が盛んになり、エビを中心とした加工品の輸出が主要な外貨獲得源となりました。2001年当時の統計では、原油や衣類に次ぐ主要な輸出項目となっており、日本などへも多く輸出されています。
問5	**答え 1** **米**	アジア諸国は世界の米生産の大部分を占めており、特に中国は世界最大の生産国です。アメリカ合衆国やブラジルといった南北アメリカ大陸の国々でも生産は行われていますが、主食として大規模に栽培され、人口を支えているアジア諸国と比較すると、その生産量は限定的なものとなります。
問6	**答え 1** **膨大な人口を抱えているため、国全体の経済規模は非常に大きいが、国民一人あたりの平均的な豊かさは発展途上の段階にある。**	中国は、輸出構造の変化や産業の高度化によって世界第2位の国内総生産を実現しましたが、14億人を超える膨大な人口を持つため、一人あたりに換算すると先進国（日本や欧米諸国）に比べてまだ低い水準にあります。このように、経済の「総量」と「個人あたりの水準」に大きな開きがあるのが中国の経済的特徴です。
問7	**答え 1** **ドイモイ（刷新）と呼ばれる政策により市場経済を導入し、外資企業の受け入れや輸出を拡大させた。**	ベトナムは1976年に南北統一を果たした後、1986年から「ドイモイ（刷新）」と呼ばれる改革開放政策を導入しました。これにより従来の計画経済から市場経済へと転換し、外国資本（外資企業）の積極的な誘致を行うことで急速な経済成長を遂げ、ASEANの中でも顕著な発展を見せています。選択肢にあるような天然ゴムやスズの輸出に頼るモノカルチャー経済からの脱却は、東南アジア諸国全体に共通する課題ですが、この国は工業化によってその転換を成功させました。
問8	**答え 1** **国内で産出される石炭や鉄鉱石の産地と重なるように製鉄所が立地している**	中国の内陸部における製鉄所の分布を確認すると、石炭の産地である華北や、鉄鉱石の産地である東北区などの資源分布と強く相関しています。日本の製鉄所が輸入原料に依存し臨海部に立地しているのに対し、中国では国内資源を活用するために、内陸部の原料産地に工場を置く形態が発展してきました。